

製品名: PKC ϵ (リン酸化 Ser729) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05263**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 -20°C で保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	83kDa

抗原情報

遺伝子名	PRKCE
別名	PRKCE; PKCE; Protein kinase C epsilon type; nPKC-epsilon
遺伝子 ID	5581.0
SwissProt ID	Q02156
免疫原	抗血清は、Ser729 のリン酸化部位周辺のヒト PKC イプシロン由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 688-737

背景

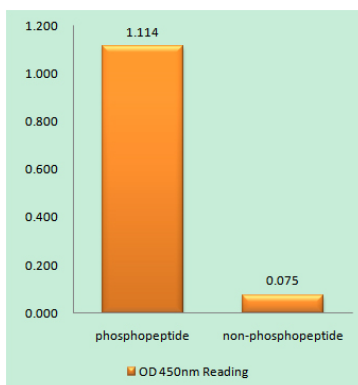
プロテインキナーゼ C イプシロン (PRKCE) ホモサピエンス プロテインキナーゼ C (PKC) は、カルシウムとセカンドメッセンジャーの

ジアシルグリセロールによって活性化されるセリンおよびスレオニン特異的プロテインキナーゼのファミリーです。PKCファミリーのメンバーは、さまざまなタンパク質標的をリン酸化します。また、多様な細胞シグナル伝達経路に關与していることが知られています。PKCファミリーのメンバーは、腫瘍プロモーターのクラスであるホルボールエステルの主要な受容体としても機能します。PKCファミリーの各メンバーは、特定の発現プロファイルを持ち、細胞内で異なる役割を果たしていると考えられています。この遺伝子によってコードされているタンパク質は、PKCファミリーのメンバーの1つです。このキナーゼは、ニューロンチャネルの活性化、アポトーシス、虚血からの心臓保護、熱ショック応答、インスリンエキソサイトーシスなど、さまざまな細胞機能に關与していることが示されています。マウスのノックアウト研究では、このキナーゼが活性化されたマクロ触媒活性におけるリポ多糖類(LPS)を介したシグナル伝達に重要であることが示唆されています: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。ドメイン: ホルボールエステル/DAG型領域1(C1A)および2(C1B)を含むC1ドメインはジアシルグリセロールセンサーであり、C2ドメインは非カルシウム結合ドメインです。酵素制御: 完全に活性化するには、3つの特定の部位、Thr-566(キナーゼドメインの活性化ループ)、Thr-710(ターンモチーフ)、およびSer-729(疎水性領域)をリン酸化する必要があります。機能: PKCはジアシルグリセロールによって活性化され、次にさまざまな細胞タンパク質をリン酸化します。PKCは、腫瘍プロモーターの一種であるホルボールエステルの受容体としても機能します。機能: カルシウム非依存性、リン脂質依存性、セリンおよびスレオニン特異的酵素です。PTM: PDPK1によるThr-566のリン酸化は、Ser-729の自己リン酸化を引き起こします。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。AGC Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。PKCサブファミリー。類似性: 1つのAGCキナーゼC末端ドメインを含みます。類似性: 1つのC2ドメインを含みます。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。類似性: 2つのホルボールエステル/DAG型ジンクフィンガーを含みます。サブユニット: TRIM63およびGN2BL1と三元複合体を形成します。、

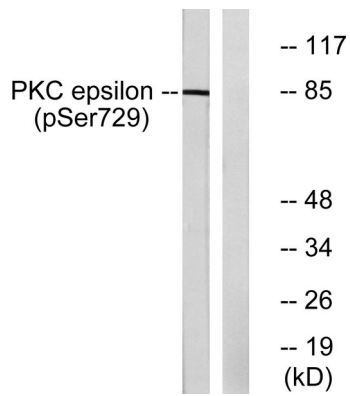
研究分野

微小管制御; アクチンダイナミクスの制御; 幹細胞経路; インスリン受容体; B細胞受容体; AMPK

画像データ



PKCイプシロン(リン酸化Ser729)抗体を用いたリン酸化ペプチド(リン酸化左)および非リン酸化ペプチド(リン酸化右)免疫原の酵素結合免疫吸着測定法(リン酸化ELISA)



PMA 125 ng/ml 30 μ l 処理した HeLa 細胞ライセートの PKC イブシロン (リン酸化 Ser729) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロックされている。